

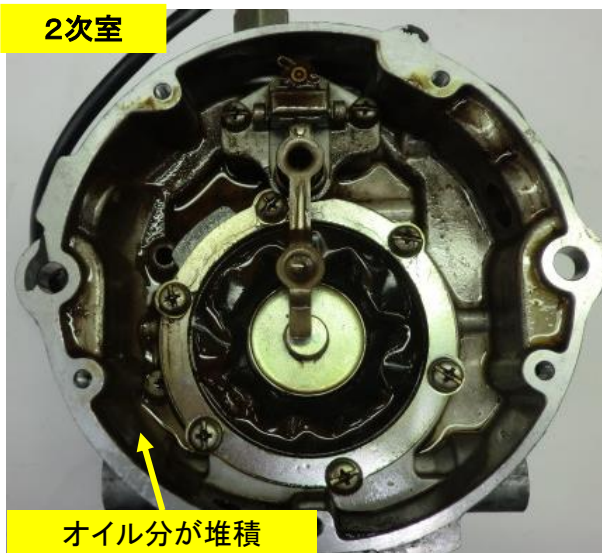
VIII. オイル(タール)問題

1. ミキサーシステムのベーパーライザ

ミキサーシステムのベーパーライザは、非常に微圧を制御します2次室側にオイルが堆積しますと、2次ダイヤフラムの受圧面積に影響を与え、具体的にはアイドルの再現性が悪化したり、アイドルセットが出来なくなります。

また、オイルや残渣によっては2次ダイヤフラムを膨潤や硬化させてしまい、これにより、2次ダイヤフラムの作動が不安定となり、エンジン不調の原因となります。

従って、オイル分の多い燃料を使用される場合は、定期的にドレーンコックからオイル抜きをする必要があります。この抜く作業を怠りオイルを溜めた状態で放置しますと、オイルがタール状になり、ドレーンから抜くことが出来なくなります。



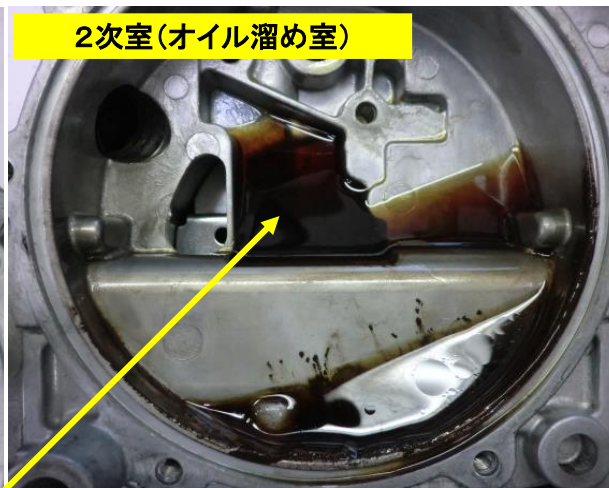
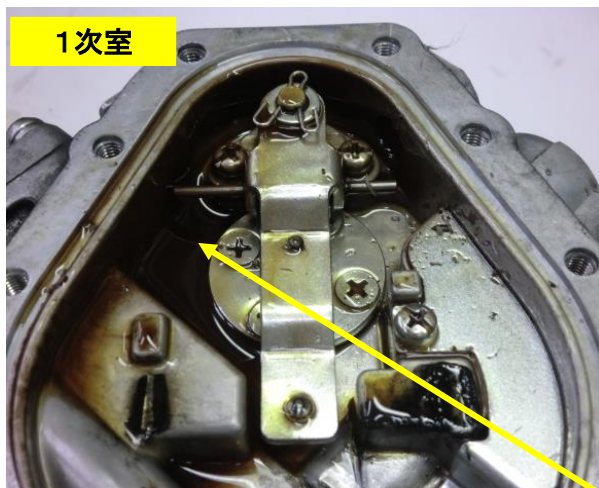
2. 噴射システムのベーパーライザ

噴射システムのベーパーライザは、制御圧が30kPaと高く、また設計的にもオイルを考慮した設計がされていますので、オイルにより性能が悪化することはあまりありません。具体的には、1次弁はオイルに浸漬しないよう高い位置にあり、また2次室が実質オイル溜め室になっています。

しかし、多量のオイル分が混入したLPGを使用しますと、1次室や2次室にオイルが堆積してしまいます。オイル分によってはダイヤフラムのゴム材に悪影響を与える場合があり、更にインジェクター側へ流れますと、インジェクターの弁がオイルで貼り付いてしまい作動不良(=始動不良)となります。

そこで、オイル分の多い燃料を使用される場合は、定期的にドレーンプラグよりオイル抜きをされるか、またはリビルト品への交換を推奨します。

なお、ドレーンプラグの脱着に付きましては、以前にご案内した通り、過大なトルクで締め付けますとテーパ部が割れてしまいますので注意して下さい。



オイルが堆積